

小島家住宅 国登録有形文化財

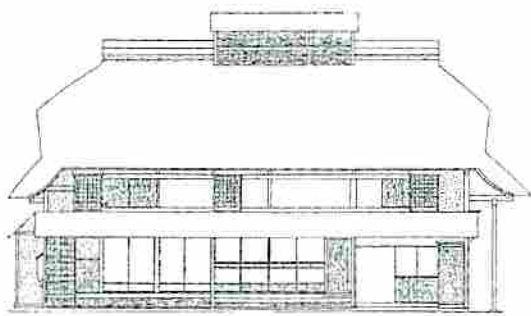
(小島家は通常非公開となっております)

主屋は明治18年頃建てられ、屋根は養蚕農家特有のかぶと造り。火事の被害で現在の建物を再建したことから防火に優れたモチノキで周りを覆っている。

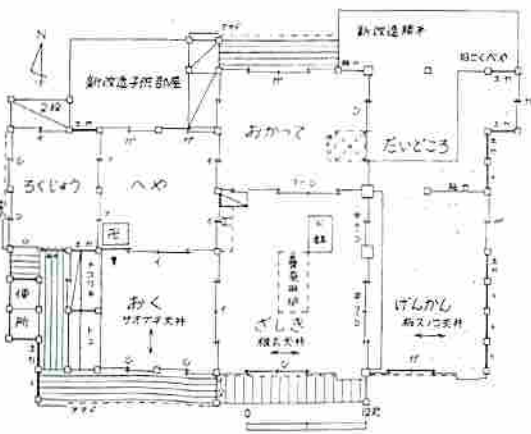
蔵の内部は東の文庫蔵と西の穀蔵に分けられている。

門はケヤキを用いた薬医門で、荷物を運ぶ際に馬に乗ったまま出入りできるように高く造られている。

小島家住宅(主屋・蔵・門)は平成27年11月に厚木市で初めて「国登録有形文化財」に登録された。



小島家住宅主屋正面図



平面図 「厚木の民家」1,3より抜粋

文化財までのアクセス



拡大図



バス情報

- 1 小島家住宅
宮の里行、上飯山行、宮ヶ瀬行、上煤ヶ谷行「光福寺」下車
- 2 金剛寺・長谷寺
上飯山行、宮ヶ瀬行、上煤ヶ谷行「飯山観音前」下車

問合せ 厚木市教育委員会 文化財保護課

TEL 046-225-2509

Email 8650@city.atsugi.kanagawa.jp

文化財の見学、拝観等はきちんとマナーを守りましょう

あつぎの文化財 一般公開

飯山の文化財を訪ねて

平成28年10月28日(金)～30日(日)

午前10時から午後3時まで



小島家住宅

厚木市教育委員会

飯山村

飯山地区は荻野川と小鮎川に挟まれた飯山台地と南の尼寺原台地上にある。『倭名類聚抄』(日本最初の百科事典)には「印山」の記載があり、多くの古墳や金剛寺、長谷寺(坂東三十三観音六番札所である飯山観音)などの古刹があることから古くから開かれた地域であることがわかる。

「飯山」の地名が最初に文献に登場するのは嘉禄3年(1227)の『法然上人行状絵図』である。そこには専修念仏弾圧に伴い、法然の高弟であった隆寛が陸奥国配流となったが、その途中で毛利季光が居所であった毛利庄飯山に住まわせた」と記されている。

ちやうこくじ 長谷寺 飯山 5605

山号は飯上山如意輪院。古義真言宗で本寺は海老名市の総持院。本尊は如意輪観音。坂東三十三観音六番札所飯山観音(観音堂)の別当である。

●観音堂 市指定有形文化財

観音堂は、江戸時代中頃に建立されたものと推定され、桁行五間、梁行五間の正方形平面を持つ。

正面中央間とその両脇間は両折棧唐戸、両隅間は連子窓という古風な構えを見せ、側面も前一間を両折棧唐戸としていて、四周の木口縁には擬宝珠高欄をまわしている。

堂内は、前二間が外陣、後三間が内陣に分けられていて、内陣には寛文12年(1672)に飯山住の大工西海氏によって造られた厨子が安置され、その中に本尊の木造十一面観音菩薩立像が納められている。



●イヌマキ 市指定天然記念物

マキ科のイヌマキ(犬槇・雌株)。樹高17m、胸高幹周2.8m。

●山門

前面両脇間に金剛欄を立て、仁王像を安置している。各柱の間に横木を渡すだけの簡素な門である。大ぶりの舟肘木や桁増のあるところに中世的な様子があるが、軒は改まっているらしい。柱も背面を中心に新材への入れ替わりがある。彫刻の施された細部が全くないことも古風であり、中世に遡る可能性がある。



●銅鐘 県指定重要文化財

この鐘は室町時代の嘉吉2年(1442)、鑄工清原国光の鑄造であることが鐘に刻まれた銘文からわかる。国光は飯山の鑄物師とみられる。総高141.0cm、口径81.0cm

金剛寺 飯山 5456

山号は華嚴山遍照院。現在は曹洞宗であるが、室町期以前は律宗の寺院であった。本寺は清源院(市内三田)である。

金剛寺の名が初めて記録に登場するのは、『吾妻鏡』の養和2年(1182)5月25日の記述で、金剛寺の僧侶が群参して近藤能成の不当な課税と、僧侶を山狩りや養蚕に召し使う乱妨の停止を源頼朝に訴えた資料である。

その後、金沢称名寺、鎌倉覚園寺、京都泉涌寺等と深い関わりをもち、中世における相模国の律宗の中心寺院となった。

●大師堂と百体地藏

方三間(二十八尺)の正方形平面を持つ中世密教本堂形式の堂。伝承によれば明和7年(1770)の建立で、全体の雰囲気は18世紀中頃の建築とみられる飯山観音堂と類似している。大師堂内には、江戸時代中頃から後半にかけて造立された100基以上の石地藏が納められている。

●木造阿弥陀如来坐像 国指定重要文化財

像高139.3cm。檜材の寄木造りで、平安時代後期の定朝様式の作。金剛寺の開創を示唆する重要な仏像であり、関東地方においても定朝様式の代表作といえる。

像内各所の墨書から、永享年間(1429~1440)、天正19年(1591)、元禄16年(1703)、天保13年(1842)と再々補修が行われている事がわかる。



●銅製品 市指定有形文化財

金剛寺に伝来する銅製品は、金剛寺を中心とする飯山地域が、古代から中世にかけて仏教隆盛の一大中心地であったことを伝える貴重な資料である。



布薩形水瓶1口



信貴山形水瓶1口



銅鉢3口



錫杖頭1口